

「第3回アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議」議事概要

■各対象地についての評価

<ボートレース福岡第4駐車場>

- ・必要な面積が確保でき、建築的自由度が高く、象徴的な施設展開が期待できるという評価は妥当
- ・付近に新しく市民ホールが整備されるものの、総合的に周囲との連携が期待しにくい土地と考えられる
- ・多くの市民や来訪者の利便性を考えると、さらに評価は低下する
- ・美術館を起爆剤として新しい人の流れを作ろうとした場合に、既存の土地のイメージとターゲットとの間にずれがあり、臨港地区（商港区）に位置していることも含め、イメージを刷新するのに時間を要する懸念がある
- ・このエリアにおける上位計画との整合性を検討する必要がある

<冷泉小学校跡地>

- ・博多部において歴史・文化の観点から重要な場所に位置していると考えられる
- ・博多遺跡の重要性に鑑みて、当地では遺跡を活かすことを第一にした整備が必要ではないか
- ・拡充にあたっては、様々な機能を持たせるために、余裕を持って床面積を確保できることが条件だと思うが、敷地を遺跡が横断しており、美術館を拡充するにあたっての面積が十分に確保出来ないため、評価が低いことは妥当
- ・車両が通り抜けできない道があり、この土地の接道条件を踏まえて、美術品輸送の大型車両の動線は検討する必要がある

<警固公園地下駐車場>

- ・地下だが必要な面積も確保できる等美術館としての利用は可能と考えられ、地上部の公園との連携も期待できる
- ・地上から地下につながる「導入部」の存在が美術館とまちをつなぐ重要な結節点になるため、その部分のデザインの作りこみが重要
- ・展示機能だけではなく、作家による作品制作・ワークショップの場や、人が集まれるような場等、様々な機能に必要な面積が取れるのは評価できる。また、将来のことを考え、当面の利用分だけでなく、余裕をもって面積を確保しておく必要がある
- ・地下への搬出入動線の確保は検討が必要
- ・地下特有の課題（地下水や埋設物等）に対する検討が重要
- ・既存構造物の再利用をすることは、環境負荷の低減が期待でき、行政としても非常にチャレンジングで評価に値する
- ・都心にこそ文化の拠点があることが重要であり、都市計画・都市デザインの観点から見ても、文化施設がこの場所に立地することは評価に値する

<天神・博多駅エリアの民間ビル内>

- ・民間ビルに公共施設が一緒になることによって総合的に都市デザインに繋がっていくことは意義があると思う
- ・ビル全体のコンセプトや開館時間、将来の更新計画等、開発計画のみならず開館後の運営面でも民間ビル側の意向にかなり左右されることが懸念される
- ・開発計画からの調整となると、かなりの時間を要すると考えられ、実現性が不透明というのは妥当

■警固公園地下駐車場の検証について

- ・既存構造物を活用するため、構造調査や設計は技術的な観点からしっかり検討する必要がある